

第2章 都市機能ビジョンに関する検討調査

第2章 都市機能ビジョンに関する検討調査

I. 都市機能ビジョンに関する検討

1. 中南部都市圏の位置づけ

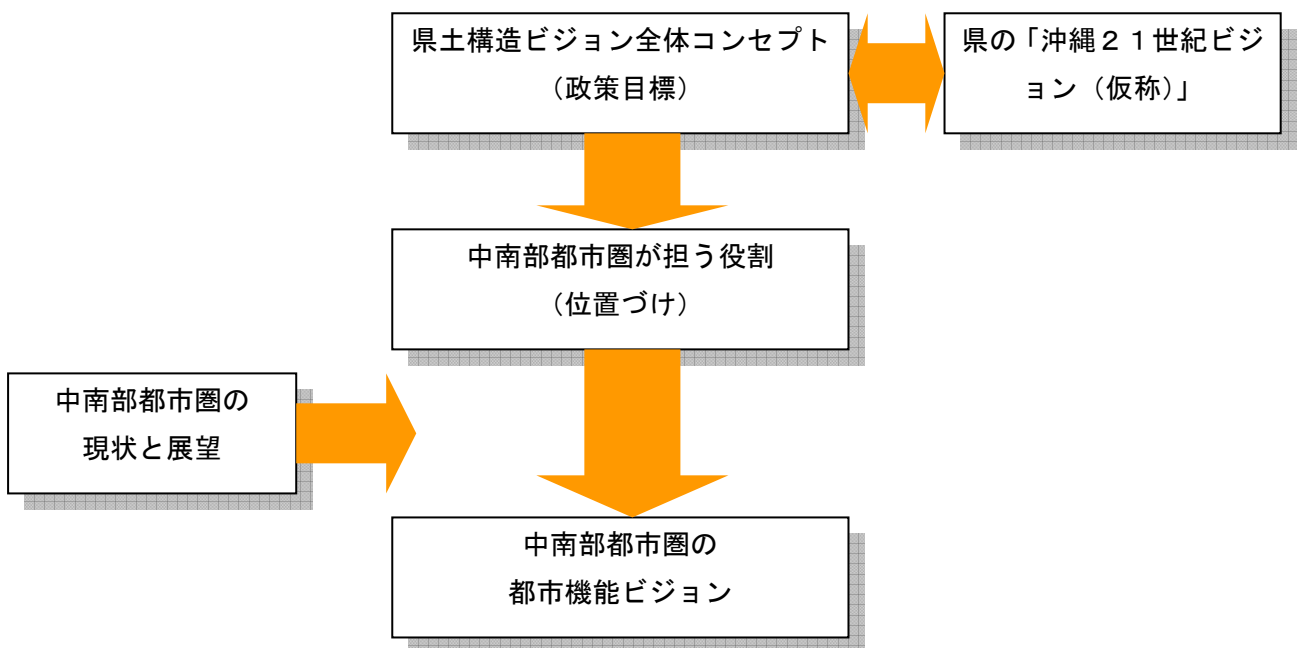
1) 基本的考え方

本県における中南部都市圏の位置づけ（担うべき役割）を考えるにあたっては、そのよりどころとして、県土構造全体を括るコンセプト（政策目標）が必要である。

全体コンセプトについては、現在、県において沖縄21世紀ビジョン（仮称）の一環として検討が進められているところであるが、ここでは全体コンセプトを素案として提示することとする。

その上で、嘉手納以南の大規模基地の返還も見据え、2030年を目標とした中南部都市圏が担う役割を検討することとする。

図表 2-1 都市機能ビジョンに関する検討の流れ



2) 県土構造全体を括るコンセプト（政策目標）

21世紀沖縄の県土構造のあり方を考えるにあたっては、亜熱帯の気候や島しょ等の自然環境の中、先人・先達が営々と培ってきた県民気質や価値観、社会資本などを再認識した上で、国内はもとよりアジア・太平洋地域のダイナミックな動向を見据えながら将来を展望することが肝要である。

かつて沖縄は、万国津梁の鐘※に象徴されるように、進取の気性をもってアジアをはじめ世界各地に雄飛することで、蓬萊※の邦としての活力と平和を享受してきた歴史を有している。島しょ沖縄が世界の一員として繁栄と平和を持続していくためには、常にアジア・太平洋地域に開かれた県土を再構築していくことが求められている。このことから、政策目標の柱の1つとして、「アジア・太平洋地域のなかで人・モノ・情報が行き交う活力と平和に満ちた万国津梁の島（交流・活力・平和）」を目指していくこととする。

また、琉球王国時代にアジアに進出した欧米人が見た沖縄の町や村の様子は、多くの記録として残されており、当時の沖縄の村々の風景の美しさや清楚さ、王都首里においては見事な庭園都市が形成されていた様子などが、欧米人の絶賛の語りで記されている。現在でも、沖縄の風土を活かした伝統集落やリゾート空間等が、人々に安らぎと癒しを与えてくれていることから、恵まれた風土を活かした風景創出の重要性を再認識するところである。このことから、政策目標の柱の2つめとして、「亜熱帯の豊かな自然と景観、文化を継承・創造する美ら島（継承・再生・創造）」を目指していくこととする。

さらに、県民生活の観点からは、コミュニティ機能の弱まりの中で、地域の安心・安全が損なわれてきたことを注視する必要がある。また、今後迎える高齢化社会においては、高齢者が生きがいを発揮できる地域社会の復興・再生が課題となっている。このことから、政策目標の柱の3つめとして、「地域社会のなかで安心と生きがいを生涯持つことのできる世界報※の島（共生・安心・生きがい）」を目指していくこととする。

新時代の県土構造の構築にあたっては、上述した3つの柱の趣旨を十分に踏まえ、これらを束ねた県土構造全体を括るコンセプト（政策目標）として、以下を掲げることとする。

※万国津梁の鐘(ばんこくしんりょうのかね):1458年に尚泰久王の命により鑄造され首里城正殿に掛けられた鐘。

銘文は15世紀中葉・尚泰久王治下の海外貿易の隆盛・制海の気概を的確に表現している。

※蓬萊(ほうらい):中国の神仙思想で説かれる想像上の仙境。東方の海上にあって、仙人が住む、不老不死の地と信じられた。

※世界報(ゆがふ):豊年万作、世の中が豊かで平和でみんなが幸せであること。

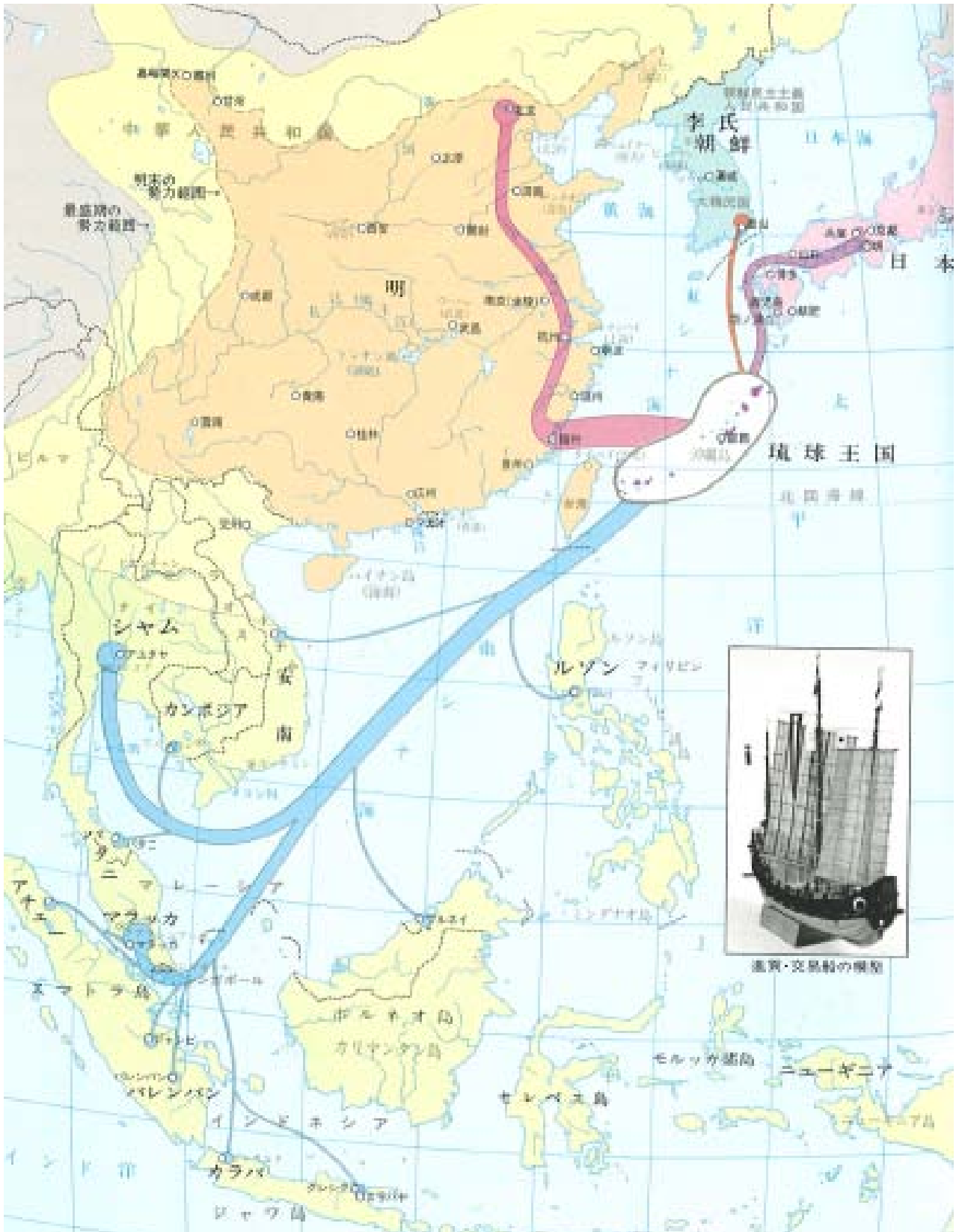
「琉球ルネサンス・2030」

(平和で活力と安らぎのある美ら島沖縄)

- アジア・太平洋地域のなかで人・モノ・情報が行き交う活力と平和に満ちた万国津梁の島(交流・活力・平和)
- 亜熱帯の豊かな自然と景観、文化を継承・創造する美ら島(継承・再生・創造)
- 地域社会のなかで安心と生きがいを生涯持つことのできる世界報の島(共生・安心・生きがい)

<ルネサンス:仏: Renaissance 直訳すると「再生」。ここでは、戦後沖縄の歴史・文化だけでなく、かつての琉球時代の歴史・文化も含めた価値の「復興」「再生」を指す言葉として用いた。>

図表 2-2 琉球王国の対外交易(14 世紀末～16 世紀)



※かつて琉球は広く東アジア・東南アジアとの対外交易を通して、15 世紀中葉には万国津梁の鐘の銘に記されたような、王国の隆盛期を築いた。

資料:「沖縄歴史地図(歴史編)」

3) 中南部都市圏が担う役割（位置づけ）

沖縄本島のうるま市、読谷村以南の市町村で構成される中南部都市圏には、県人口の 82%にあたる約 110 万人が住んでおり、人口の減少がはじまった我が国において、2025 年頃まで人口が増加していく数少ない地域である。

アジア・太平洋地域を見ると、100 万人以上の都市は数多く分布するが、島しょにおける 100 万規模の都市は、極めて稀である。

また、嘉手納飛行場以南の米軍基地の返還が合意されたことにより、本圏域には合計で 1,000ha を超える大規模で利用可能な県土が生まれてくる。この広大な空間は、21 世紀の県土を再編し、アジア・太平洋地域をはじめ世界に開かれた社会を構築していく上で極めて重要である。

このような状況を鑑みると、中南部都市圏は、アジア・太平洋地域等との多面的な交流・交易のもと、今後の沖縄全体の経済・文化等の多様な活動を先導し、牽引していくとともに、沖縄の風土・文化・技術等を活かして国際貢献・国際協力を発信していく地域としての役割が想起される。

具体的には、世界に開かれた自由な発想で、21 世紀の分権と自治を先導する機能を有し、広大な基地跡地を活用した戦略的産業の振興により沖縄経済を牽引していくことが期待される。

また、地球温暖化等の地球規模での環境問題が拡大する中、亜熱帯の気候や島しょ等の自然環境、そこで育まれた生活環境等を活かした、持続可能な沖縄らしい新たな環境共生スタイルを構築し、同様の自然環境や生活環境を有する地域等への多面的な国際貢献を先導していくことが期待される。さらに、今後の高齢社会においては、高齢者が生きがいを発揮できる地域社会を各世代が協働して復興・再生することも重要である。

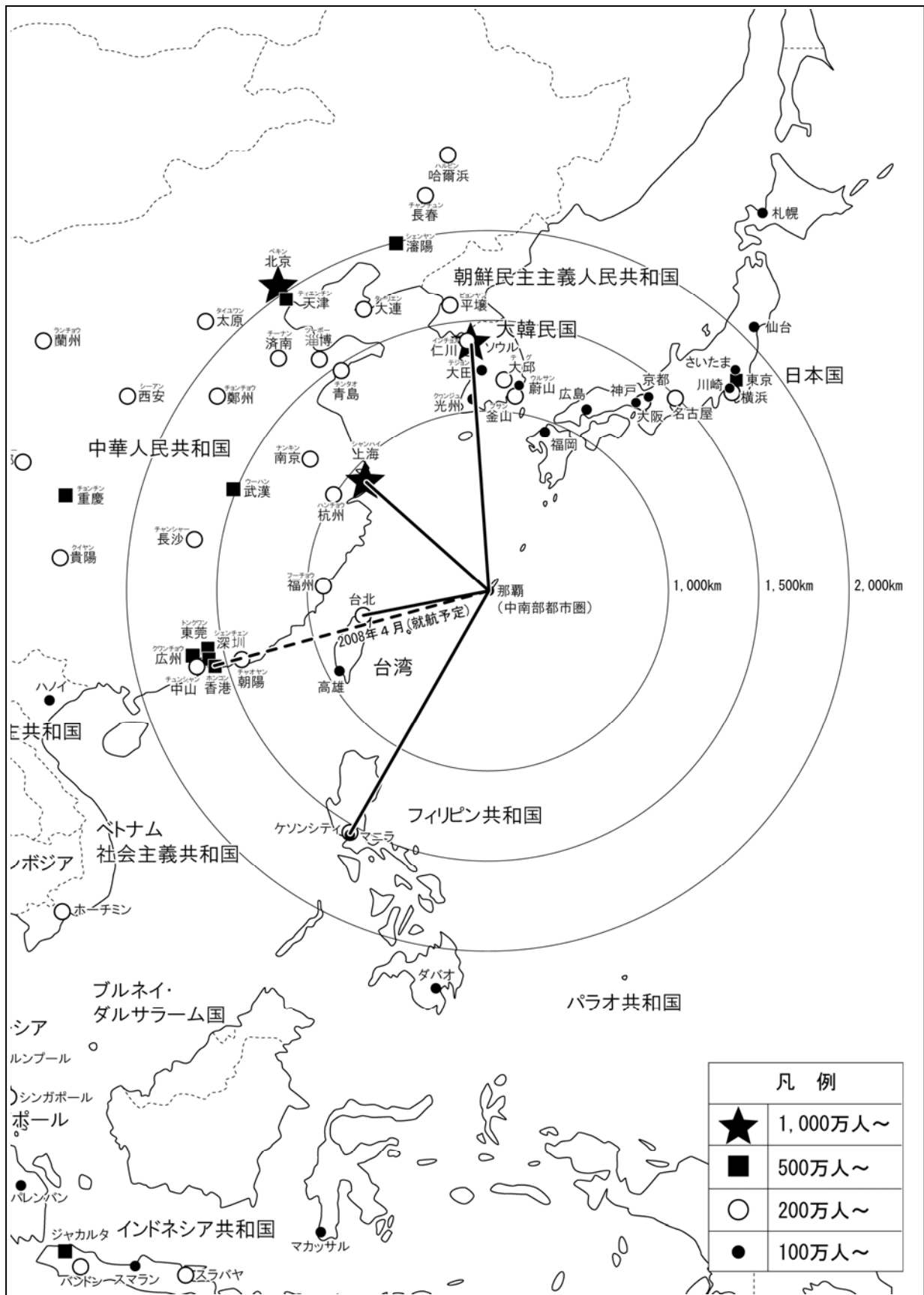
これらの施策は、一過性の流行や風潮に流され陳腐に陥ることなく、真に沖縄らしい価値の長期的な発揮・持続の視点に立ち、着実・段階的に推し進めることにより、時とともに地域の価値を高めていくことが重要である。

上述の観点から、中南部都市圏が担う役割（位置づけ）を以下のように位置づけた。

「1000 万人の交流と国際貢献を先導し、時とともに 価値が高まるアジア・太平洋の 100 万人島しょ都市」

- 21 世紀の分権と自治を先導
- アジア・太平洋地域における国際交流・貢献戦略を先導
- 戦略的産業の振興により沖縄経済を牽引
- 沖縄の風土や文化に根ざした新たな共生スタイルの構築

図表 2-3 アジア100万人都市分布図と沖縄直行便ネットワーク



※中国本土については、100万人以上の都市は多いことから、200万人以上の都市に限って整理した。